

(表 3-2-2-12) 食事過剰要求高齢者のパターン
(潜在クラス2クラスモデルのプロフィール)

(n=131)

項目	カテゴリー	全体	パターン1	パターン2
			自立、中程度重症度	一部介助、中高程度重症度
サイズ		1.000	0.654	0.346
性別	男	0.199	0.196	0.204
	女	0.802	0.804	0.796
食事介助	全介助	0.015	0.000	0.044
	一部介助	0.237	0.050	0.590
	自立	0.748	0.950	0.366
認知症の重症度	I	0.076	0.102	0.028
	II	0.267	0.350	0.111
	III	0.298	0.301	0.291
	IV	0.321	0.203	0.544
	V	0.038	0.044	0.027
身体障害の重症度	J	0.122	0.147	0.075
	A	0.672	0.846	0.343
	B	0.191	0.007	0.539
	C	0.015	0.000	0.044

(参考) 該当事例数 → (131) (86) (45)

(表 3-2-2-13) 潜在クラスモデル評価 (高齢者パターン)
(情報量規準)

モデル(クラス数)	BIC	AIC
モデル1(クラス数1)	945.7	916.9
モデル2(クラス数2)	961.6	901.3
モデル3(クラス数3)	1000.2	908.1
モデル4(クラス数4)	1037.6	914.0

(表 3-2-3-1) 解決前の状況

	解決経験のある有効回答数	自分の食事が終わっても他の人の食事を取って食べてしまう	自分の食事が終わっても、何か食べるものは無いか要求したり、落ち着かなかった	食事を終えても、何も食べていないと怒っていた	近くにあるものを口に入れようとしたり、かじったりすることが度々みられた	自分の食事を早く食べてしまい、残っているお膳をさがし、次々と食べてしまっていた	その他
実数	157	48	69	57	30	17	16
パーセント	100.0	30.6	43.9	36.3	19.1	10.8	10.2

(表 3-2-3-2) 解決後の状況

	解決経験のある有効回答数	食事の時間まで待てるようになった	食べ物の要求は無くなった	食べ物を要求することは徐々に減って、人のお膳を食べまわらなくなった	要求する際は訴え方には焦燥感なく、笑顔も見られるようになった	食べ物を要求するまでの時間間隔が長くなった	自分の食事で満足するようになった	その他
実数	155	17	25	32	30	24	45	12
パーセント	100.0	11.0	16.1	20.6	19.4	15.5	29.0	7.7

(図表 3-2-4-1) 食事過剰要求場面の解決方法

区分	code	解決時に行った方法	実数	%
		有効回答数	158	100.0
食事環境の調整	101	隣の席から離れる	52	32.9
	102	席の変更	55	34.8
	104	仲の良い人の隣に座った	2	1.3
	105	テーブル、椅子の調整	1	0.6
	106	好きな音楽を流す	1	0.6
	190	その他	2	1.3
食事の工夫	201	低カロリーにして大盛りにした	31	19.6
	202	カロリーを考慮し、好きなおかず数を増加	20	12.7
	203	摂取状態に応じた食材形態変更	16	10.1
	204	おやつや代替品を提供	77	48.7
	206	水分の摂取を増やす	68	43.0
	207	低カロリーの間食や夜食の提供	27	17.1
	208	食器を小さくし、おかわりを増やす、食事数を増やす	32	20.3
	209	スプーンを小さくする	6	3.8
	210	配膳、下膳のタイミングを調整した	10	6.3
	211	盛りつけの工夫	6	3.8
	212	好きなものを提供	2	1.3
	215	食事時間の調整	2	1.3
290	その他	4	2.5	
声かけや会話の工夫	301	スタッフが一緒に食事をとる	91	57.6
	302	訴えを受容し、会話を多くする	67	42.4
	303	待ってねと声かけ	25	15.8
	304	別の場所へ移動し会話する	11	7.0
	305	味の感想を伺う	46	29.1
	306	食事以外の話をする	22	13.9
	308	着席のタイミングを調整した	1	0.6
	309	声かけをやめ、静かにする	1	0.6
	310	食事時間の確認や説明を丁寧にする	5	3.2
	390	その他	4	2.5
活動の工夫	401	食後のレクリエーション活動への誘導	46	29.1
	402	外出	70	44.3
	403	興味のあるものを提供	18	11.4
	404	計算ドリル	8	5.1
	405	役割	4	2.5
	407	配膳、下膳を手伝ってもらう	2	1.3
	408	買い物につきあってもらう	4	2.5
	409	食事の準備や調理、片づけに参加してもらう	5	3.2
	490	その他	1	0.6
	その他	501	献立の掲示や説明	15
503		体重の管理	1	0.6
504		医療的対応	1	0.6
506		食べ物を視野から取り除く	3	1.9
590		その他	4	2.5

(参考) 平均回答項目数 →

5.5

(表3-2-5-1) 解決に役立った情報

区分	code	解決に役立った情報	実数	%
計 (延解決方法件数)			795	100.0
認知能力	1	認知機能	35	4.4
	2	認知症の種類	4	0.5
	3	認知症の症状	46	5.8
健康面	5	体調	51	6.4
	6	現病・既往歴	21	2.6
	7	排泄状況	15	1.9
	8	水分状態	29	3.6
	9	視力・視覚機能	18	2.3
	10	体重・BMI	25	3.1
	11	運動量	36	4.5
	12	睡眠時間・状況	9	1.1
	13	手指腕の機能	15	1.9
	口腔機能	14	口腔状況	4
15		咀嚼力	13	1.6
16		嚥下状態・誤嚥	19	2.4
心理面	17	気分	181	22.8
	18	心配ごと・不満状況	58	7.3
	19	本人の気持ち、意志	150	18.9
食事関係	20	食の嗜好・興味・意欲	97	12.2
	21	最近の食事量	46	5.8
	22	当日の食事量・おやつ量	68	8.6
	23	満腹感、空腹感	106	13.3
	24	食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)	28	3.5
	25	盛付	37	4.7
	26	食器の配置	19	2.4
	27	食器の大きさ	32	4.0
	28	食器の色	3	0.4
食事中の状態	29	食中の様子	91	11.4
	30	姿勢	11	1.4
	31	目線	39	4.9
	32	食事中の会話	77	9.7
	33	表情	77	9.7
習慣	34	最近の食習慣	34	4.3
	35	生活習慣(ここ数年)	65	8.2
	36	生活歴(幼少期から)	48	6.0
環境	37	周囲の雰囲気・刺激(音・光・匂い)	63	7.9
	38	席の位置	69	8.7
	39	椅子・机の形	3	0.4
	40	椅子・机の高さ	4	0.5
	41	椅子・机の色	1	0.1
人間関係	42	他の入居者との関係	136	17.1
	43	スタッフとの関係	146	18.4
	44	家族関係	10	1.3
介護者の対応	45	スタッフの声かけ内容・見守り方	280	35.2
その他	46	その他	22	2.8

(参考) 平均記入項目数 → 2.9

(表 3-2-5-2) 食事過剰要求場面の解決に役立った情報の組み合わせパターン (潜在クラス17クラスモデルのプロファイル)

Table with columns: 区分, code, 解決に役立った情報, サイズ, and 17 pattern columns (パターン1 to パターン17). Rows include categories like 認知能力, 構面, 口腔機能, 心理面, 食事摂取, 食事中心の状態, 習慣, 環境, 人間関係, and 介護者の対応.

(参考) 選択された平均項目数 → (795) 該当事例数 → (111) サイズ(標準)から算出して表裏示したものであり、標準が標準の場合、事例数が異なることがある。(注) 該当事例数は、各パターンのサイズ(標準)から算出して表裏示したものであり、標準が標準の場合、事例数が異なることがある。

(表3-2-5-3) 潜在クラスモデル評価 (情報の組み合わせパターン)
(情報量規準など)

モデル(クラス数)	情報量規準		Classification Statistics			
	BIC	AIC	Class.Err.	Reduction errors	Entropy R-squared	Standard R-squared
モデル1(クラス数1)	15084.9	14879.0	0.000	1.000	1.000	1.000
モデル2(クラス数2)	14922.6	14506.2	0.073	0.752	0.696	0.737
モデル3(クラス数3)	14998.6	14371.7	0.103	0.737	0.703	0.719
モデル4(クラス数4)	15135.0	14297.6	0.152	0.728	0.691	0.681
モデル5(クラス数5)	15308.7	14260.7	0.142	0.734	0.729	0.710
モデル6(クラス数6)	15488.3	14229.8	0.159	0.751	0.735	0.710
モデル7(クラス数7)	15712.9	14243.9	0.180	0.721	0.726	0.677
モデル8(クラス数8)	15892.6	14213.1	0.183	0.748	0.743	0.691
モデル9(クラス数9)	16136.6	14246.5	0.196	0.753	0.746	0.681
モデル10(クラス数10)	16363.1	14262.5	0.188	0.749	0.754	0.693
モデル11(クラス数11)	16592.0	14280.9	0.155	0.815	0.796	0.740
モデル12(クラス数12)	16840.2	14318.6	0.185	0.775	0.788	0.712
モデル13(クラス数13)	17117.5	14385.4	0.184	0.766	0.770	0.702
モデル14(クラス数14)	17325.3	14382.7	0.176	0.793	0.790	0.720
モデル15(クラス数15)	17553.8	14400.6	0.162	0.812	0.813	0.743
モデル16(クラス数16)	17797.9	14434.2	0.164	0.806	0.815	0.738
モデル17(クラス数17)	18075.2	14500.9	0.155	0.818	0.822	0.752
モデル18(クラス数18)	18359.9	14575.1	0.169	0.807	0.822	0.740
モデル19(クラス数19)	18589.9	14594.6	0.177	0.797	0.825	0.736

(表3-2-5-4) 情報の組み合わせパターンと解決方法の関連

区分	code	解決方法	情報の組み合わせパターン																		
			パターン1	パターン2	パターン3	パターン4	パターン5	パターン6	パターン7	パターン8	パターン9	パターン10	パターン11	パターン12	パターン13	パターン14	パターン15	パターン16	パターン17		
食事環境の調整	101	隣の席から離れる	5.9	1.0	1.1	90	56	52	50	30	29	24	24	22	19	15	15	15	15		
	102	席の変更	6.4	6.3	0.2	4.5	5.1	12.9	2.7	0.3	11.4	0.2	16.7	0.0	0.1	0.1	2.0	0.0	0.0		
	104	仲の良い人の隣に座った	0.3	0.0	0.0	0.6	0.1	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	105	テーブル、椅子の調整	0.1	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	106	好きな音楽を流す	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	180	その他	0.3	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	食事の工夫	201	紙コップにして水盛りにした	3.3	0.6	15.4	0.7	0.0	3.1	0.7	0.0	0.5	0.1	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		202	コップに水を注ぎ、好きなおかずを盛り増した	2.3	0.0	9.7	0.3	0.9	2.5	0.4	3.4	0.4	3.6	4.3	0.0	0.1	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0
		203	摂取状態に応じた食料調整	1.9	0.0	8.1	0.2	0.1	0.4	5.2	0.4	0.0	6.9	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		204	おやつや代替食を提供	8.8	4.3	20.2	7.3	10.3	12.2	10.3	3.2	1.2	5.5	17.3	1.1	15.4	15.7	14.8	32.2	0.0	0.0
		206	水分の摂取を増やす	7.8	5.0	16.1	4.2	0.6	10.2	9.1	0.5	1.3	3.9	0.2	0.0	87.9	5.4	2.1	0.2	0.2	0.0
		207	紙コップの用意や食事の提供	3.0	2.1	9.0	2.2	0.1	3.4	3.5	0.0	0.1	0.0	0.6	4.2	0.7	5.7	14.8	0.5	5.1	0.0
		208	食器を小さくし、おかわりを増やす、食事量を減らす	4.0	0.6	8.1	0.6	0.2	5.4	2.2	1.2	3.5	40.8	4.5	0.0	0.9	0.0	0.2	0.4	0.0	0.0
		209	スプーンを小さくする	0.8	0.0	2.3	0.3	0.1	0.0	0.1	0.2	4.4	1.9	0.2	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		210	配膳、下膳のタイミングを調整した	1.1	1.8	0.0	1.4	1.8	1.3	0.2	5.0	0.1	1.9	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		211	盛りつけの工夫	0.8	0.0	1.5	1.6	0.4	0.0	0.0	0.2	0.0	1.4	7.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		212	好きなものを提供	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
215		食事時間の調整	0.3	0.8	1.3	0.0	0.1	0.1	0.0	0.4	0.2	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
280		その他	0.5	0.8	1.0	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	0.2	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
声かけや食卓の工夫		301	スタッフが一緒に食事をとる	10.6	25.2	1.9	7.4	18.9	5.1	22.0	7.0	4.7	7.3	28.3	0.4	0.2	8.0	7.3	7.2	0.0	
		302	防水を愛用し、余裕を多くする	8.2	14.7	0.4	16.0	1.6	11.2	6.8	11.2	3.0	4.6	13.2	10.3	0.2	6.4	0.7	10.7	6.9	0.0
		303	待つてねと声かけ	2.5	6.1	0.1	3.4	1.8	3.1	2.0	7.0	0.4	2.0	0.1	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0
		304	別の場所へ移動し、会話する	1.3	1.3	0.0	5.0	1.9	0.4	0.3	0.1	2.3	0.2	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0	6.4	0.0	0.0
	305	紙の配膳を行う	5.3	3.7	4.5	4.8	0.6	9.0	5.9	11.8	0.0	0.2	0.2	0.2	0.1	13.1	0.0	13.4	27.0	0.0	
	306	食事以外の話を増やす	2.5	4.9	0.1	1.5	0.2	1.6	5.8	0.0	3.5	14.3	0.1	0.0	0.0	0.6	1.6	1.3	0.0	0.0	
	308	食事のタイミングを調整した	0.1	0.0	0.0	0.0	0.3	1.3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	309	声かけをやめ、静かにする	0.1	0.3	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	310	食事時間の短縮や説明を丁寧にする	0.6	0.6	0.0	1.4	0.0	0.1	0.0	0.0	1.1	0.1	0.0	2.7	0.0	0.6	1.5	5.6	0.0	0.0	
	380	その他	0.5	0.7	1.1	0.4	0.2	0.1	0.1	0.5	0.1	0.3	0.1	0.0	0.3	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	
	活動の工夫	401	食事のレクリエーション活動への誘導	5.3	5.5	0.1	11.0	3.7	6.4	0.1	19.3	4.7	8.8	0.0	0.0	0.5	18.8	6.9	0.6	0.0	
		402	外出	7.5	7.3	0.1	12.4	3.6	4.6	7.0	24.3	20.8	1.0	1.0	1.2	0.9	34.6	6.9	13.8	0.0	
		403	興味のあるものを提供	2.1	2.0	0.0	0.8	1.3	0.1	1.9	4.3	5.7	4.3	2.9	0.1	0.1	0.5	0.2	0.0	0.0	0.0
		404	計算ドリル	0.9	0.8	0.0	0.9	1.5	0.0	2.2	3.5	0.0	8.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		405	役割	0.5	0.7	0.0	0.4	0.1	0.0	1.7	4.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0
		407	配膳、下膳を手伝ってもらう	0.3	0.0	0.0	0.6	0.0	0.1	0.0	2.2	0.1	0.0	0.8	0.0	0.0	0.1	0.0	0.5	0.0	0.0
		408	興味深い物について話してもらおう	0.5	0.8	0.0	0.9	0.1	2.6	0.1	0.9	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.5	0.0	0.0
409		食事の準備や配膳、片づけに参加してもらおう	0.6	0.0	0.0	0.4	0.1	1.1	3.7	0.0	1.1	0.8	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
480		その他	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他		501	構造的提示や説明	1.8	1.4	0.8	1.0	5.0	1.5	2.1	1.6	0.4	13.7	0.0	0.0	0.2	0.1	0.1	0.1	0.2	0.0
		503	体重の管理	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		506	食べ物を視野から取り除く	0.3	0.8	0.0	0.0	0.1	1.5	0.0	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		590	その他	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	0.2	0.0	0.1	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
			合計	795	118	111	90	56	52	50	30	29	24	24	22	19	15	15	15	15	15

(注) 潜在クラス分析結果に基づき集計

(表3-2-6-1) 絶対にやってはいけない対応

	有効回答数	そのままにして放っておく	否定・指示・命令的な声かけ	食べるだけ食べさせ、過剰に摂取させる	批判する	大きな声で、いらいらした気持ちで受け答えする	その他
実数	189	168	176	159	159	169	18
パーセント	100.0	88.9	93.1	84.1	84.1	89.4	9.5

2. 食事拒否への成功事例調査

1) 回答者属性

本調査の回答 266 件における回答者の年齢、性別、職名、役職、資格、所属事業種、勤続年数、総介護経験年数について割合を算出した。

(1) 年齢

有効回答 258 件における回答者の平均年齢は、42.9 歳 (SD12.8 歳) で最少年齢が 18 歳、最高年齢が 90 歳であった。その分布をみると、25 歳から 59 歳までほぼ均等にばらついている (35 歳～39 歳がやや少ない)。(表 3-3-1-1 参照)

(2) 性別割合

有効回答 263 件中、回答者の性別割合は男性が 76 件 (28.6%)、女性が 187 件 (71.1%) と女性の割合が多かった。(表 3-3-1-2 参照)

(3) 職名の割合

有効回答 246 件中、回答者の職名の割合はケアワーカーが 102 件 (41.5%)、ケアマネージャーが 77 件 (31.3%)、看護師が 20 件 (8.1%)、相談員が 5 件 (2.0%) となっている。(表 3-3-1-3 参照)

(4) 役職の割合

有効回答 254 件中、回答者の役職の割合は管理者が 92 件 (36.2%)、主任・リーダーが 65 件 (25.6%)、施設長が 26 件 (10.2%)、事務長と理事長が各 1 件 (0.4%) で、79 件 (31.1%) が役職なしであった。(表 3-3-1-4 参照)

(5) 資格の所有割合

有効回答 260 件中、回答者の資格の所有割合は介護福祉士が 176 件 (67.7%)、ケアマネージャーが 88 件 (33.8%)、ヘルパーが 87 件 (33.5%)、看護師 (准看護師) が 24 件 (9.2%)、社会福祉士が 12 件 (4.6%) であった。(表 3-3-1-5 参照)

(6) 所属事業種の割合

有効回答 261 件中、回答者の所属事業種は認知症対応型共同生活介護事業が 248 件 (95.0%)、介護老人福祉施設と介護老人福祉施設(ユニット型)が各 4 件 (1.5%)、小規模多機能型通所介護事業が 3 件 (1.1%) であった。(表 3-3-1-6 参照)

(7) 所属事業所での勤続年数

有効回答 266 件中、回答者の所属事業所での平均勤続年数は、4.0 年 (SD2.4 年) で最少が 0.1 年、最高が 14.8 年であった。(表 3-3-1-7 参照)

(8) 総介護経験年数

有効回答 263 件中、回答者の総介護経験の平均年数は、8.5 年 (SD5.3 年) で最少が 0.7 年、最高が 42.7 年であった。(表 3-3-1-8 参照)

2) 食事拒否の解決経験

本調査に回答を得た 266 件における食事拒否の解決経験、解決した高齢者に関する年齢、性別、認知症の原因疾患、身体機能の障害とADL、認知症の重症度、身体障害の重症度について割合を算出するとともに、介助や重症度などによるパターン化を行った。

(1) 解決経験の有無

有効回答 262 件中、食事拒否で解決経験があるのは 255 件 (97.3%) であった。

(表 3-3-2-1 参照)

(2) 高齢者の状態

① 年齢

解決経験がある 255 件のうち有効回答 242 件における高齢者の平均年齢は、84.5 歳 (SD6.1 歳) で最少年齢が 65 歳、最高年齢が 97 歳であった。その分布をみると、80 歳~84 歳が 74 件 (30.6%) で最も多い。(表 3-3-2-2 参照)

② 性別

性別割合は、有効回答 249 件中、男性が 47 件 (18.9%)、女性が 202 件 (81.1%) と女性が多い。(表 3-3-2-3 参照)

③ 認知症の原因疾患

認知症の原因疾患は、有効回答 243 件中、アルツハイマー型が 146 件 (60.1%)、脳血管疾患型が 56 件 (23.0%)、前頭側頭型が 2 件 (0.8%)、混合が 17 件 (7.0%) であった。(表 3-3-2-4 参照)

④ 身体機能の障害とADL

【機能障害部位】

機能障害部位は、有効回答 255 件中、下肢が 78 件 (30.6%)、体幹が 11 件 (4.3%)、上肢が 3 件 (1.2%) であり、残りの 163 件 (63.9%) が機能障害なし (=無回答) であった。(表 3-3-2-5 参照)

【食事介助】

食事介助は、有効回答 246 件中、自立が 150 件 (61.0%)、一部介助が 80 件 (32.5%)、全介助が 16 件 (6.5%) であった。(表 3-3-2-6 参照)

【移動】

移動は、有効回答 196 件中、短距離歩行自立が 116 件 (59.2%)、長距離歩行自立が 52 件 (26.5%)、杖自立が 25 件 (12.8%) であった。(表 3-3-2-7 参照)

【排泄】

排泄は、有効回答 225 件中、身体介助必要が 144 件 (64.0%)、身体介助必要なしが 79 件 (35.1%) であった。(表 3-3-2-8 参照)

【入浴】

入浴は、有効回答 250 件中、洗身洗髪介助が 92 件 (36.8%)、移動介助が 49

件（19.6%）、全介助が 23 件（9.2%）、その他一部介助が 70 件（28.0%）で、自立が 16 件（6.4%）であった。（表 3-3-2-9 参照）

⑤ 認知症の重症度

認知症の重症度は、有効回答 250 件中、ランクⅠが 23 件（9.2%）、ランクⅡが 49 件（19.6%）、ランクⅢが 92 件（36.8%）、ランクⅣが 70 件（28.0%）、ランクⅤが 16 件（6.4%）であった。（表 3-3-2-10 参照）

⑥ 身体障害の重症度

身体障害の重症度は、有効回答 247 件中、J ランクが 22 件（8.9%）、A ランクが 148 件（59.9%）、B ランクが 64 件（25.9%）、C ランクが 13 件（5.3%）であった。（表 3-3-2-11 参照）

⑦ 高齢者パターン

高齢者の状態を総合的にみてパターン化するために、性別、食事介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目を対象にして潜在クラス分析（注 1）を行った結果 2 パターンが可能となった。

第 1 パターンは、食事介助で自立（83.9%）が多く、身体障害の重症度で A ランク（76.4%）が多く、認知症の重症度でランクⅡ（27.9%）、ランクⅢ（46.2%）の中程度が多いことから、これを「自立、中程度重症度」と解釈した。このパターンには、有効回答 217 件のうち 154 件（71.0%）が該当する。

第 2 パターンは、食事介助で一部介助（73.3%）が多く、身体障害の重症度で B ランク（56.0%）と A ランク（29.2%）が多く、認知症の重症度でランクⅣ（66.5%）が多いことから、これを「一部介助、中高程度重症度」と解釈した。このパターンには 63 件（29.0%）が該当する。（表 3-3-2-12 参照）（潜在クラスモデルの評価経緯は表 3-3-2-13 参照）

（注 1）潜在クラス分析について

潜在クラス分析は、全体集団から異質な部分集団の混在を識別する分析モデルである。

高齢者全体集団でみたとき、性別、食事介助、認知症の重症度、身体障害の重症度の 4 項目間に関連があれば異質な部分集団が混在していると考えて、項目間の関連がない部分集団（これをクラスと呼ぶ）を識別する。具体的には、同一クラス内では対象 4 項目間の関連がなくなるように識別し、項目間の関連がなくなることを局所独立と呼ぶ。

クラス数は任意であるが、多くすれば局所独立が高まる反面モデルとしての適切さが損なわれる。適切なモデル（クラス数）を評価する指標として AIC や BIC などの情報量規準が用いられ、その数値が低い方が良いとされている。なおここで示すクラス毎の事例件数は確率的に求めた件数である（注 2 参照）。分析ソフトは“LatentGOLD”を用いた。

3) 解決前と解決後の変化

食事拒否で解決経験がある 255 件における、解決前の状況と解決後の状況について割合を算出した。

(1) 解決前の状況

食事拒否が解決される前の状況としては、有効回答 255 件中、「配膳しても手をつけようとしなかった」が 160 件 (62.7%)、「食事の時間でも食べることに関心がなく介助しても口から出したり、顔をそむけて拒否した」が 71 件 (27.8%)、「席に誘導しようとする」と拒否した」が 69 件 (27.1%)、「しつこく声かけすると怒り、暴言・暴力行為などがあつた」が 66 件 (25.9%)、「食事の時間になっても食卓につこうとせず、別の場所にいつてしまっていた」が 57 件 (22.4%)、「居室内でお菓子を食べていた」が 13 件 (5.1%)、「食事の時間になっても、床拭きなどの作業をして声かけをし誘っても断つた」が 7 件 (2.7%) であつた。(表 3-3-3-1 参照)

(2) 解決後の状況

食事拒否が解決された後の状況としては、有効回答 251 件中、「声をかけると素直に食べるようになった」が 75 件 (29.9%)、「時間はかかるが摂取するようになった」が 73 件 (29.1%)、「拒否が少なくなり、食べるようになった」が 66 件 (26.3%)、「必ず少しは箸をつけるようになり、全量摂取することもできた」が 65 件 (25.9%)、「毎回ではないが食べ始めるようになった」が 41 件 (16.3%)、「他利用者と一緒に食堂で摂取するようになった」が 40 件 (15.9%)、「全量完食するようになった」が 31 件 (12.4%)、「介助すると口をあけ、食べるようになった」29 件 (11.6%)、「自分から食器を持ち食べるようになった」26 件 (10.4%)、「食事の摂取にはつながらないが、好きなおやつは拒否なく食べるようになった」が 18 件 (7.2%) であつた。(表 3-3-3-2 参照)

4) 食事拒否の解決方法

食事拒否で解決経験がある 255 件における、解決方法の割合を算出するとともに、解決方法をパターン化して、どのパターンがどのような結果に貢献するのか、さらにその貢献は高齢者パターンでどう異なるのか分析した。

(1) 解決方法の概況

食事拒否を解決する時に行った解決方法を具体的に記入してもらい、その内容を検討評価して 55 分類した。分類結果は、環境調整に関するものが 8 分類、声かけの工夫に関するものが 9 分類、誘導の工夫に関するものが 7 分類、食事の工夫に関するものが 15 分類、生活のリズムに関するものが 9 分類、その他が 7 分類であつた。

有効回答 253 件のなかで多くあがつたものは、「本人ペースで声かけ」が 181 件 (71.5%)、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」と「活動量を増やす」が各 108

件 (42.7%)、「コミュニケーションをふやす」が 86 件 (34.0%)、「好きな食べ物を見せる」が 78 件 (30.8%)、「好きな話題で声かけ」が 77 件 (30.4%)、「好きな場所で食事を取る」が 75 件 (29.6%)、「声かけをせず、職員と一緒に」が 72 件 (28.5%)、「好きな献立にする」が 63 件 (24.9%)、「ぐっすり眠ってもらうようにした」が 58 件 (22.9%)、「食事内容、献立の説明」が 56 件 (22.1%)、「家族の話題」が 51 件 (20.2%) などであり、1 事例あたり平均 6.4 項目あげられた。

(表 3-3-4-1 参照)

5) 食事拒否の解決に役立った情報

上記の解決方法個々について、役立った情報をあげてもらった。

有効回答延べ 1,441 件の解決方法について、役立った情報の割合を算出するとともに、情報をパターン化して、どの情報パターンがどの解決方法に関連するのか分析した。

(1) 役立った情報の概況

有効回答 1,441 件のなかで多くあがったものは、「スタッフの声かけ内容・見守り方」が 419 件 (29.1%)、「本人の気持ち、意志」が 392 件 (27.2%)、「気分」が 333 件 (23.1%)、「食の嗜好・興味・意欲」が 309 件 (21.4%)、「スタッフとの関係」が 223 件 (15.5%)、「他の入居者との関係」が 162 件 (11.2%)、「体調」が 148 件 (10.3%) などであり、ひとつの解決方法当たり平均 3.0 項目あげられた。(表 3-3-5-1 参照)

(2) 役立った情報の組み合わせパターン

ここでも上記の解決方法同様に、実際の組み合わせに高い確率で近似する組み合わせパターンを得るために潜在クラス分析を応用した。

その結果 17 の組み合わせパターンを得た。

第 1 パターンは平均 2.7 項目の組み合わせであり、「食の嗜好・興味・意欲」(95.4%) を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」(22.2%) 他に分散して構成されている。第 1 パターンの該当事例は延べ 163 件 (11.3%) である。

第 2 パターンは平均 2.6 項目の組み合わせであり、「生活習慣 (ここ数年)」(53.0%)、「生活歴 (幼少期から)」(42.3%)、「最近の食習慣」(23.2%) などの“習慣”を主として、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(33.6%) 他に分散して構成されている。第 2 パターンの該当事例は延べ 141 件 (9.8%) である。

第 3 パターンは平均 3.7 項目の組み合わせであり、「本人の気持ち、意志」(99.8%) を共通ベースとして、「気分」(54.8%) や「心配ごと・不満状況」(24.1%) を含めた“心理面”、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(70.9%)、「スタッフとの関係」(33.3%) などで構成されている。第 3 パターンの該当事例は延べ 133 件 (9.2%) である。

第 4 パターンは平均 2.8 項目の組み合わせであり、「スタッフの声かけ内容・見

守り方」(99.7%)を共通ベースとして、「スタッフとの関係」(47.3%)や「気分」(26.5%)などで構成されている。第4パターンの該当事例は延べ107件(7.4%)である。

第5パターンは平均2.9項目の組み合わせであり、「気分」(81.3%)を共通ベースとして、「本人の気持ち、意志」(62.9%)と「心配ごと・不満状況」(26.3%)を含めた“心理面”にウェイトを置き、「食の嗜好・興味・意欲」(29.6%)他に分散して構成されている。第5パターンは延べ105件(7.3%)である。

第6パターンは平均2.9項目の組み合わせであり、「周囲の雰囲気・刺激(音・光・匂い)」(62.6%)と「席の位置」(57.3%)を主として、「他の入居者との関係」(44.4%)他に分散して構成されている。第6パターンは延べ104件(7.2%)である。

第7パターンは平均3.5項目の組み合わせであり、「表情」(73.4%)、「食中の様子」(40.3%)、「食事中的会話」(34.6%)、「視線」(24.2%)など“食事中的状態”を主として、「スタッフとの関係」(20.4%)他に分散して構成されている。第7パターンは延べ102件(7.1%)である。

第8パターンは平均2.5項目の組み合わせであり、「睡眠時間・状況」(55.0%)、「運動量」(42.7%)、「体調」(37.4%)、「薬の種類、服薬状況」(29.0%)など“健康面”を主として構成されている。第8パターンは延べ95件(6.6%)である。

第9パターンは平均2.5項目の組み合わせであり、「家族関係」(66.4%)を主として、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(32.3%)、「生活歴(幼少期から)」(30.3%)、「心配ごと・不満状況」(26.9%)、「本人の気持ち、意志」(25.9%)、「所持金/経済不安」(20.4%)などに分散して構成されている。第9パターンは延べ86件(6.0%)である。

第10パターンは平均3.0項目の組み合わせであり、「スタッフとの関係」(73.3%)、「家族関係」(42.9%)、「他の入居者との関係」(30.8%)の“人間関係”を主として、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(31.3%)、「気分」(23.9%)、「本人の気持ち、意志」(23.3%)などで構成されている。第10パターンは延べ68件(4.7%)である。

第11パターンは平均3.6項目の組み合わせであり、「盛付」(76.5%)を共通ベースとして、「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」(62.7%)、「食器の配置」(48.8%)、「食の嗜好・興味・意欲」(45.5%)などを含めた“食事関係”を主として構成されている。第11パターンは延べ65件(4.5%)である。

第12パターンは平均2.7項目の組み合わせであり、「水分状態」(63.3%)、「排泄状況」(30.9%)、「体調」(29.6%)など“健康面”を主として構成されている。第12パターンは延べ65件(4.5%)である。

第13パターンは平均3.6項目の組み合わせであり、「体調」(67.6%)、「睡眠時

間・状況」(26.1%)、「運動量」(23.0%)、「排泄状況」(22.2%)などの“健康面”と、「本人の気持ち、意志」(61.8%)、「気分」(43.4%)などの“心理面”を主として構成されている。第13パターンは延べ62件(4.3%)である。

第14パターンは平均3.8項目の組み合わせであり、「咀嚼力」(59.6%)、「嚥下状態・誤嚥」(56.4%)、「口腔状況」(40.7%)の“口腔機能”と、「食の嗜好・興味・意欲」(43.1%)や「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」(31.7%)などの“食事関係”を主として構成されている。第14パターンは延べ46件(3.2%)である。

第15パターンは平均3.3項目の組み合わせであり、「当日の食事量・おやつ量」(90.4%)を共通ベースとして、「食の嗜好・興味・意欲」(74.9%)や「最近の食事量」(57.9%)などを含めた“食事関係”を主として構成されている。第15パターンは延べ39件(2.7%)である。

第16パターンは平均3.8項目の組み合わせであり、共通ベースがなく、「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」(41.1%)、「周囲の雰囲気・刺激(音・光・匂い)」(31.5%)、「席の位置」(26.3%)、「スタッフの声かけ内容・見守り方」(35.2%)、「口腔状況」(29.6%)、「本人の気持ち、意志」(24.6%)などに分散して構成されている。第16パターンは延べ33件(2.3%)である。

第17パターンは平均4.0項目の最多組み合わせであり、「認知症の症状」(89.0%)を共通ベースとして、「認知機能」(36.4%)と「認知症の種類」(35.4%)を含めた“認知能力”にウェイトを置き、「気分」(28.3%)、「本人の気持ち、意志」(21.6%)、「生活習慣」(22.9%)他に分散して構成されている。第17パターンは延べ29件(2.0%)である。(表3-3-5-2参照)(潜在クラスモデルの評価経緯は表3-3-5-3参照)

(3) 情報の組み合わせパターンが関連する解決方法

上記の情報組み合わせがどの解決方法に関連するか分析と次の傾向である。

第8パターン(「睡眠時間・状況」、「運動量」、「体調」、「薬の種類、服薬状況」など“健康面”を主として構成された平均2.5項目の組み合わせ)は、「活動量を増やす」が40.4%、「ぐっすり眠ってもらうようにした」が28.8%と多い。

第11パターン(「盛付」を共通ベースとして、「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」、「食器の配置」、「食の嗜好・興味・意欲」などを含めた“食事関係”を主として構成された平均3.6項目の組み合わせ)は、「食べやすいよう、盛りつけを工夫」が39.6%と多い。

第12パターン(「水分状態」、「排泄状況」、「体調」など“健康面”を主として構成された平均2.7項目の組み合わせ)は、「水分摂取量を増やした」が33.3%と多い。

第15パターン(「当日の食事量・おやつ量」を共通ベースとして、「食の嗜好・興味・意欲」や「最近の食事量」などを含めた“食事関係”を主として構成され

た平均 3.3 項目の組み合わせ)は、「カロリーを考慮し、おやつを提供」が 36.4%と多い。

第 3 パターン(「本人の気持ち、意志」を共通ベースとして、「気分」や「心配ごと・不満状況」を含めた“心理面”、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「スタッフとの関係」などで構成された平均 3.7 項目の組み合わせ)は、「本人ペースで声かけ」が 28.6%と多い。

第 13 パターン(「体調」、「睡眠時間・状況」、「運動量」、「排泄状況」などの“健康面”と、「本人の気持ち、意志」、「気分」などの“心理面”を主として構成された平均 3.6 項目の組み合わせ)は、「本人ペースで声かけ」が 25.3%、「活動量を増やす」が 21.7%、と多い。

第 9 パターン(「家族関係」を主として、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「生活歴(幼少期から)」、「心配ごと・不満状況」、「本人の気持ち、意志」、「所持金/経済不安」などに分散して構成された平均 2.5 項目の組み合わせ)は、「家族の話題」が 24.5%と多い。

第 4 パターン(「スタッフの声かけ内容・見守り方」を共通ベースとして、「スタッフとの関係」や「気分」などで構成された平均 2.8 項目の組み合わせ)は、「本人ペースで声かけ」が 24.0%と多い。

第 6 パターン(「周囲の雰囲気・刺激(音・光・匂い)」と「席の位置」を主として、「他の入居者との関係」他に分散して構成された平均 2.9 項目の組み合わせ)は、「少人数席に変更」が 21.4%と多い。

第 16 パターン(共通ベースがなく、「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」、「周囲の雰囲気・刺激(音・光・匂い)」、「席の位置」、「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「口腔状況」、「本人の気持ち、意志」などに分散して構成された平均 3.8 項目の組み合わせ)は、「好きな場所で食事を取る」が 20.7%と多い。(表 3-3-5-4 参照)

6) 絶対にやってはいけない対応

絶対にやってはいけない対応としては、有効回答 249 件中、「しつこく、怒り口調で声かけ」が 226 件(90.8%)、「強引に口に入れる」が 225 件(90.4%)、「強制的な声かけ」が 216 件(86.7%)、「食べないからとすぐに下膳する」が 211 件(84.7%)、「無理やり席に座らせる」が 209 件(83.9%)、「会話の内容を否定する」が 197 件(79.1%)、「本人任せで放っておく」が 170 件(68.3%)となっている。(表 3-3-6-1 参照)

(表 3-3-1-1) 回答者の年齢

	有効回答数	24歳以下	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60歳以上
実数	258	6	38	43	25	30	33	30	28	25
パーセント	100.0	2.3	14.7	16.7	9.7	11.6	12.8	11.6	10.9	9.7

(平均年齢等)

有効回答数	平均 歳	標準偏差 歳	最小値 歳	最大値 歳
258	42.9	12.8	18	90

(表 3-3-1-2) 回答者の性別割合

	有効回答数	男	女
実数	263	76	187
パーセント	100.0	28.9	71.1

(表 3-3-1-3) 回答者の現在の職名

	有効回答数	ケアワーカー	相談員	ケアマネジャー	看護師	その他
実数	246	102	5	77	20	61
パーセント	100.0	41.5	2.0	31.3	8.1	24.8

(表 3-3-1-4) 回答者の役職

	有効回答数	施設長	管理者	主任・リーダー	事務長	理事長	なし
実数	254	26	92	65	1	1	79
パーセント	100.0	10.2	36.2	25.6	0.4	0.4	31.1

(表 3-3-1-5) 回答者の所有資格

	有効回答数	看護師(准看護師)	介護福祉士	社会福祉士	ケアマネジャー	ヘルパー	その他
実数	260	24	176	12	88	87	16
パーセント	100.0	9.2	67.7	4.6	33.8	33.5	6.2

(表 3-3-1-6) 回答者の所属事業種

	有効回答数	介護老人福祉施設	介護老人福祉施設(ユニット型)	認知症対応型共同生活介護事業	小規模多機能型通所介護事業	その他
実数	261	4	4	248	3	7
パーセント	100.0	1.5	1.5	95.0	1.1	2.7

(表 3-3-1-7) 回答者の所属事業所での勤続年数

有効回答数	平均 年	標準偏差 年	最小値 年	最大値 年
266	4.0	2.4	0.1	14.8

(表 3-3-1-8) 回答者の総介護経験年数

有効回答数	平均年	標準偏差年	最小値年	最大値年
263	8.5	5.3	0.7	42.7

(表 3-3-2-1) 食事拒否の解決経験の有無

	有効回答数	ある	ない
実数	262	255	7
パーセント	100.0	97.3	2.7

(表 3-3-2-2) 高齢者の年齢

	解決経験のある有効回答数	74歳以下	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
実数	242	15	29	74	70	54
パーセント	100.0	6.2	12.0	30.6	28.9	22.3

(平均年齢等)

解決経験のある有効回答数	平均歳	標準偏差歳	最小値歳	最大値歳
242	84.5	6.1	65	97

(表 3-3-2-3) 高齢者の性別割合

	解決経験のある有効回答数	男	女
実数	249	47	202
パーセント	100.0	18.9	81.1

(表 3-3-2-4) 認知症の原因疾患

	解決経験のある有効回答数	アルツハイマ一型	脳血管疾患型	前頭側頭型	混合	その他
実数	243	146	56	2	17	22
パーセント	100.0	60.1	23.0	0.8	7.0	9.1

(表 3-3-2-5) 機能障害部位

	解決経験のある人	首	上肢	下肢	体幹	なし (=無回答)
実数	255	0	3	78	11	163
パーセント	100.0	0.0	1.2	30.6	4.3	63.9

(表 3-3-2-6) 食事介助

	解決経験のある有効回答数	全介助	一部介助	自立
実数	246	16	80	150
パーセント	100.0	6.5	32.5	61.0

(表 3-3-2-7) 移動

	解決経験のある有効回答数	杖自立	短距離歩行自立	長距離歩行自立	その他(回答者追記)
実数	196	25	116	52	3
パーセント	100.0	12.8	59.2	26.5	1.5

(表 3-3-2-8) 排泄

	解決経験のある有効回答数	身体介助必要	身体介助必要なし	その他(回答者追記)
実数	225	144	79	2
パーセント	100.0	64.0	35.1	0.9

(表 3-3-2-9) 入浴

	解決経験のある有効回答数	全介助	移動介助	洗身洗髪介助	その他一部介助	自立
実数	250	23	49	92	70	16
パーセント	100.0	9.2	19.6	36.8	28.0	6.4

(表 3-3-2-10) 認知症の重症度

	解決経験のある有効回答数	I	II	III	IV	V
		何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している	日常生活に支障を来たすような症状、行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる	ランクIIの症状がときどき見られ、介護を必要とする(徘徊、失禁など)	ランクIIの症状が頻繁に見られ、常に介護を必要とする	著しい精神症状や問題行動あるいは、重篤な身体疾患が見られ専門医療を要する
実数	250	23	49	92	70	16
パーセント	100.0	9.2	19.6	36.8	28.0	6.4

(表 3-3-2-11) 身体障害の重症度

	解決経験のある有効回答数	J	A	B	C
		何らかの障害を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する	屋内の生活は概ね自立しているが、介助なしに外出しない	屋内の生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活主体で座位を保つ	一日中ベッドで過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する
実数	247	22	148	64	13
パーセント	100.0	8.9	59.9	25.9	5.3

(表 3-3-2-12) 食事拒否高齢者のパターン
(潜在クラス2クラスモデルのプロフィール)

(n=217)

項目	カテゴリー	全体	パターン1	パターン2
			自立、中程 度重症度	一部介助、 中高程度重 症度
サイズ		1.000	0.709	0.291
性別	男	0.207	0.235	0.141
	女	0.793	0.765	0.859
食事介助	全介助	0.060	0.000	0.205
	一部介助	0.327	0.161	0.733
	自立	0.613	0.839	0.062
認知症の 重症度	I	0.101	0.143	0.001
	II	0.198	0.279	0.002
	III	0.378	0.462	0.173
	IV	0.267	0.104	0.665
	V	0.055	0.013	0.159
身体障害の 重症度	J	0.083	0.109	0.020
	A	0.627	0.764	0.292
	B	0.244	0.114	0.560
	C	0.046	0.013	0.128

(参考) 該当事例数 → (217) (154) (63)

(表 3-3-2-13) 潜在クラスモデル評価 (食事拒否高齢者パターン)
(情報量規準)

モデル(クラス数)	BIC	AIC
モデル1(クラス数1)	1687.1	1653.3
モデル2(クラス数2)	1622.0	1551.1
モデル3(クラス数3)	1665.9	1557.8
モデル4(クラス数4)	1714.2	1568.9